

### 主な内容

- 合併協議が終了  
..... P 2~5
- 第29回市議会定例会  
..... P 6~7
- 暮らしの情報  
..... P 12~15



## 親子で魅了された日本百景の溪谷 「また来るよ」の言葉を励みに 操船や歌を精進する日々

命名100年を迎えた狛鼻溪で  
船頭を務めている

### 佐藤純一さん

他の職業を経験後、22年4月  
から狛鼻溪の船頭見習い。7  
月から船頭。大東町曾慶。31  
歳



File 26

「まだ新米ですから、マニュアル通りにし  
やべれませんか」と前置きしながらも、その場のお  
客さんの顔を見て質問に答え、軽妙なやりとり  
を交わす佐藤純一さん。4月から狛鼻溪舟下り  
の船頭見習いとなり、7月にデビューした、新人  
船頭です。

父・清文さんも現役船頭を務める、初の「親子  
船頭」。高校卒業時、清文さんに船頭をやってみ  
ないかと勧められたものの、「親と違うことをし  
たい」と別の仕事に就いた純一さん。ガソリン  
スタンド勤務、コンビニ店長と、ずっと接客業に携  
わってきました。十年以上がたち、父に再び勧め  
られた船頭の道に「人と接するのが好きな自分  
に向いている」と飛び込みました。

砂鉄川が石灰岩を浸食してできた約2億の溪  
谷、狛鼻溪。国の名勝で日本百景にも選ばれてい  
ます。35人から75人もの人を乗せた船を、長さ5  
桁のさお1本で操る一方で、お客さんをトーク  
で笑わせ、げいび追分の歌声で酔わせるエン  
ターテイナーであることも求められる、船頭と  
いう仕事。キャリア17年の父に、下船する乗客か  
ら大きな拍手が送られているの聞くと、「すごい  
と素直に思える」と純一さん。

「お客さんの拍手と、また来るよという言葉が  
励み」と語る純一さん。四季折々の溪谷の魅力  
を伝え、また足を運んでほしいと、24人の先輩の技  
を見ながら、操船に、歌に、磨きをかけます。